

# 平成 27 年度 森林総合研究所公開講演会(九州地域) 開催報告

開催日時：平成 27 年 10 月 15 日 (木) 13 時 30 分～16 時 00 分

開催場所：くまもと県民交流館パレア 10 階パレアホール (熊本市中央区手取本町 8-9)

テーマ：「ナラ枯れ研究と低密度植栽実証研究」

参加者数：90名

## 発表者

○九州支所 森林微生物管理研究グループ 主任研究員 高畑 義啓

「ナラ枯れ」とは何か ー概論及び病害としてのナラ枯れー

【要旨】 「ナラ枯れ」とは、病原菌である *Raffaelea quercivora* (いわゆるナラ菌) をカシノナガキクイム (以下、カシナガ) という昆虫が伝播することによって起こる、ナラ類やシイ・カシ類の病害です。前年の被害木から脱出したカシナガが新たな宿主樹木の幹内部にナラ菌を持ち込み、ナラ菌が樹体の中に蔓延すると、根から葉への水の流れが阻害され、樹木全体や枝が枯死します。

○九州支所 森林動物研究グループ 主任研究員 後藤 秀章

九州で発生する照葉樹林の「ナラ枯れ」の特徴 ー被害の経過から管理法を考えるー

【要旨】 「ナラ枯れ」はカシノナガキクイムシ (以下、カシナガ) の媒介する樹木病害で、九州ではマテバシイ、スダジイなどが被害を受けます。防除対策を考えるため、被害木の増減や被害木でのカシナガの繁殖などについて調べました。その結果、被害はカシナガの増殖と関係なく終息に向かうことが明らかとなりました。

○九州支所 森林資源管理研究グループ 主任研究員 近藤 洋史

ICTを用いたナラ枯れ被害情報の管理とその応用

【要旨】 県境を越えて広域的に発生するナラ枯れに関する情報を効果的に管理するため、携帯電話やスマートフォンといった ICT を使用してデータを収集・解析して、被害発生の予測をリアルタイムに行い、関係者間で情報共有・閲覧が可能なシステムを開発しました。

○九州森林管理局 森林技術・支援センター 森林技術普及専門官 池水 寛治

九州地域における低密度植栽の検証について

【要旨】 九州森林管理局では、平成 16～18 年度に、各森林管理署等において低密度植栽(1,500 本/ha)を実施しました。今回、このうちの 4 署等の現地検証結果をとりまとめましたので、当センター試験地での成果と共に発表します。

現在、コンテナ苗等を活用した一貫作業システムにより、地拵えから植付までの低コスト化に向けた取組みを行っています。今後、主伐・再造林が本格化していく中、造林の低コスト化、苗木・労働力不足などへの対応が求められています。今回の成果から、低密度植栽がこれら課題の解決に有効であると考えられます。



開会挨拶



会場内の様子



パネル展示



発表者 (高畑)



発表者 (後藤)



発表者 (近藤)



発表者 (池水氏)